

絵本遊び 読み聞かせ インストラクター

一般社団法人全国乳幼児遊び研究協会

講師：みやざき あゆみ

06

講義6:環境構成と導入



講義6：環境構成と導入

子ども達は楽しい事が大好きです。
何にでも興味を持ち、楽しめる天才です。
しかし環境構成や導入により、読み聞かせの時間を
楽しい時間に出来るか否かが左右されたりも
します。
読み聞かせに集中出来るのか、他に気持ちがいつて
しまうのか…
少しの心掛けが大きな影響を与えたりしますので、
ポイントを見ていきましょう。



◆ おまけ

〈集団での読み聞かせが刺激になる〉

ある研究によると、集団での読み聞かせは、他の子どもたちに刺激され、一緒に楽しみ、理解しようとする積極性が生まれたという報告もあるそうです。子ども同士の相互作用と、お友だちとの場や時を共有する喜びがあることで、絵本体験はもっと豊かになるのですね。

1.環境構成

講義6

【子どもたちの座らせ方】

園や公共での読み聞かせは、基本的に複数人へ同時に行われます。
すべての子どもに絵本が見えるよう、絵本を中心に扇状に座らせましょう。

子どもの座る位置から絵本が見えるかどうか、事前に確認してしっかりと見えるよう
注意しながら読み聞かせをしてください。

前の子どもの顔と顔の間から、後ろの子どもの顔が見えるように座らせると
良いでしょう。

全員に絵が見えるか確認するようにしましょう。

1対1などの少人数の場合は、膝の上に座らせたり、横に座って隣で読んだりして、
子どもが絵本を見やすいように読むと良いでしょう。



【子ども全員から見える位置に】

絵本が見えないと子どもたちはつまらなくなってしまう。
はじっこにいる子は意外と絵本のページが見えていないことがあります。
よく見えていないと集中力が途切れてしまいますので、見えやすい位置や座り方を考えておきましょう。

見えにくそうな子どもを見つけたら、声掛けをして、見える位置に促しましょう。
一度、子どもが座った時の、視線の高さを把握するのもお勧めです。

視線の低い子どもに対して、どれくらいの本の角度なら見やすいか？
また、子どもの座る位置、座った位置を見て、どう持てば全員が見えるかを考えていきましょう。

【絵本はしっかりとページを開いて持つ】

絵本のページは、しっかりと開いて持ちましょう。

絵本の背表紙の下部を持ち、指でページを開いて持ちます。

脇をしめるようにして持つと手が安定します。

また、スムーズに読み聞かせが進むよう、ページのめくり方も練習しておくといいですね。

十分にページが開けていないと、角度によってはページが見えにくくなってしまうことがありますので、すべての子どもがきちんと絵を見ながらお話を聞けるように、読み手が配慮することが大切です。

◆ おまけ

＜繰り返し読むことの大切さ＞

イギリスのサセックス大学で行われた研究によれば、同じ本を繰り返し読み聞かせた方が、子どもはより速く新しいことを学ぶそうです。

また一度読んだ本に関しては、二度目以降の読み聞かせでは子どもの反応が多くなること、自分の驚きや思ったことを発信することが多くなることがわかっています。

対話を楽しみ、絵本の楽しさをじっくり味わう上でも繰り返し読むことが大切と言えます。

【絵本に集中できる場所を選ぶ】

本当に絵本の読みきかせが子どもにとって楽しければ、どんな場所でも集中するものですが、どんな子どもでもお話に集中できるよう、環境を考えていきましょう。子どもが絵本に集中できる場所かどうか、意識することが大切です。

＜考えるポイント＞

①視界に動くものが入らない場所。

子ども達から、保育室の入り口や廊下側が見えないようにする。

（子どもが廊下側を向いて絵本の読み聞かせをおこなうと、廊下で動く人や風景が目に入り注意力が削がれてしまいます。

また、お話の世界から現実に戻される可能性があります。）

②気が散るようなものが周りにない場所。

おもちゃが周りにはふれていると、そちらに気が散ってしまう。

（集中力・注意力が、おもちゃによって奪われる可能性もあります。）

③静かな場所。

④絵本に対する子どもの座る位置も工夫が必要。

できるだけ絵本に近い場所に座れるようにする。

【子どもの視力】

子どもたちは視力が未発達なため、大人が思っている以上に見えていない場合があります。

もし絵本が見えていないようであれば、子どもの人数に配慮した座り方を促す必要があります。

どうしても見えにくいように思われる場合は、同じ絵本でも大型絵本を利用して読み聞かせをおこなうこともひとつの手段です。

2. 導入

講義6

『導入』って難しそう…

『導入』ってどんなものかよくわからない…

実際に何をしたらいいのか、なかなか思いつかない…

『導入』という言葉だけを聞くと、なんだか難しい感じがしますよね。
でも大丈夫です。

導入＝子どもが落ち着いて絵本を楽しめる雰囲気作り

あまり難しく考えずに、簡単にできる『導入』から行っていきましょう。
まずは…

『導入＝活動前のウォーミングアップ』

と考えてみましょう。

子どもたちが活動を十分に楽しめるようにするための、準備段階です。

子どもたちに、

「これからなにをするの！？」

「なんだか楽しそうなことがはじまりそう！」

と感じてもらえるようなものであれば、どんなものでもいいのです。

ですから、難しいことはありません。

『導入』によって、次の活動への雰囲気をつくっていく…という感覚でOKです！

講義6

まずは導入として、子どもたちが落ち着いて読み聞かせを聞くことができる雰囲気作りを行います。

子どもたちの注目を集め、絵本への関心を高める効果も期待できます。手遊びを行う際は、盛り上がるものよりも段々と静かになっていくものを選ぶと良いでしょう。

絵本の内容にちなんだ手遊びをしたり、絵本の表紙を見てお話をしたりして、聞く姿勢が整うのを待っても良いでしょう。

導入には、いろいろな方法や種類があります。じゃんけんのような簡単なゲーム、絵本のテーマに合った歌や、ちょっとしたクイズも導入の1つです。年長クラスなどではそういった特別な方法を使わずに、絵本の紹介をする、絵本に語り掛けるだけでも立派な導入になります。自分にあった導入方法を探してみましょう。

ただし、子どもたちが集まって座っている状態からのスタートなど、聞く姿勢ができている状況であれば、「はじまりはじまり」といきなり絵本を読んでも問題ありません。

< 注意する点 >

導入は、あくまでも次に続く活動が主となるということです。
適度な長さやインパクトであることが大切です。
例えば、導入が長すぎてしまって活動前に子どもたちが飽きてしまったり、
導入のインパクトが強すぎて、その後の活動に興味がわかなくなってしまうたり…
このようなことがないように、導入と活動のバランスをみながら考えましょう。

その中でも、手遊びは一番オーソドックスで、何も道具を使わずにできる導入です。
手遊びによって子どもたちの興味をひきつけ、楽しい雰囲気を作ることができます。
特に年齢の低い子どもたちには効果的で、親しみやすい導入でもあります。

その際は、声のトーンを上げて、笑顔で楽しそうに歌うことが大切です。

うまく子どもたちの注意を引き付け、静かに絵本を聞く体勢を作ることができれば、絶好のスタートが切れるでしょう。

これから「絵本を読む」という期待を高める導入は、子どもたちに「これから楽しいことが始まるよ」という期待感を高めたり、興味を持たせたりするためのものです。

明るく楽しい雰囲気導入を始めていきましょう。

ちゃんと聞きなさい、とでも言うような、とげとげしいスタートにならないように注意が必要です。

言葉が分かる年齢なら、これから絵本を読むということを最初に伝えておいても良いでしょう。

まとめ



講義6

今回の環境構成は主に集団でのお話しでした。
ただ、この環境構成は何の為にやるのか？という基本に戻ると、
「集中して読み聞かせを聞く為」という部分に繋がります。
数名での読み聞かせの場合でも、見える見えないでケンカになったり
しますが、それは環境構成によって解決しますので、数名での
読み聞かせの場合も気を付けて行ってみてください。

導入も考え方は同じです。
お家でも同じですが、何か気持ちを変えたい時にも使える“導入”です。
興味を惹きたい時や、気持ちを変えたい時に行うのもお勧めです。
どうしたら、子ども(達)が楽しくその時間を過ごせるか。
大人の腕の見せどころですよ！
楽しそうであれば必ず誰でもそこに興味が湧くと思いませんか？
大人も子どもも同じだと思います^^
あなたが子どもの立場でも楽しめる、環境構成と導入を考えてみてくだ
さいね！

Thank You



講義6

講義お疲れ様でした。

大人の持っていていき方により、子ども達のその後の時間が変わります。

そこで今回の課題です。

【課題】

あなたは子どもです。

どんな導入だと魅力を感じてその場所に行きたくなっちゃいますか？

具体的な導入でも大丈夫です。

年齢も想定して考えてみてくださいね。

離れた場所にいたあなたが思わず駆け寄っていつっちゃう導入！

3歳児の私なら…

魚が跳ねて～おしりにくっついた～パンツッ♡ですかね 笑

あ！マジックもいいですね～♪

お答え楽しみにしています！